



## 「川の流れるように」

たるみ ひで お  
**垂 秀夫さん**

**最優秀賞**

撮影地：北海道ニセコ町

他の優れた写真をさしおいてこの作品がトップに輝いた理由は、画面全体に漂う「神々しさ」だと思います。構図やシャッター速度などの技術面も適切で、なによりニセコアンブリの大地を覆い尽くす自然の潜在的なエネルギーや神秘性をつかみ取ろうという、作者の狙いが明確に伝わってきます。町や人工物も入れたところにも、人間と自然の共存というキーワードが感じられます。



# 第5回 電気のふるさと フォトコンテスト

## 審査結果

### 総評

「今年は全体的に水準が高い!」と思ったのが、まず応募作品を一見た感想でした。もちろん昨年も上位に残った写真はたいへん優れていましたが、今年は最終選考に残った中に上位候補にふさわしい写真が目白押しといった感じで、最優秀賞を絞り込むのにかなり迷い、選考も昨年より時間がかかりました。

全国の電源地域内で撮られたもの、という条件をクリアしながら、同時に写真そのものとしての撮影技術や表現力を十分に備えていなければならないという高いハードルのコンテストにもかかわらず、これだけの質と量の作品が集まったことに、応募者の皆さんの当コンテストに対する理解の深さと熱意を強く感じました。



## 「三崎燈台のあかり」

いのうえ つとむ  
**井上 勉さん**

**優秀賞  
風景の部**

撮影地：愛媛県伊方町

四国の愛媛県伊方町佐田岬から見た、灯台、船の航跡、対岸の九州の工業地帯の灯りを、実に美しく幻想的に描写した作品です。こうした夜景撮影はたまたま現場へ行って撮れるものではなく、作者の綿密なロケハンと撮影プランによって得られた賜物。電気が生み出す物理的な恩恵への感謝と、電気が人間に与える美しい光景や安心感や憧憬への讃歌に溢れている作品です。



## 「夏の彩」

**優秀賞  
暮らしの部**

の がわ しん や  
**能川 慎弥さん**  
撮影地：埼玉県寄居町

まだ明るさの残る夕空に打ち上げられた花火を、手前の山車の灯りとバランスよく画面に収めることができました。決して豪華な花火ではないけれど、川辺の提灯の反映や人物の様子など、実に多くの情報量を持った作品で、見ていて飽きることがありません。きちんと三脚を立て、構図を決め、絞り込み、適切なスローシャッターで狙った成果が見事に現れました。

### 選評

審査委員長  
いたみ こう し  
**板見 浩史さん**

1952年、福岡県生まれ。法政大学卒。写真専門誌『フォトコンテスト(現フォトコン)』誌の編集長を約20年務めた後、2004年独立。写真関連の企画・制作会社Jophy Communications代表。フォトエディターとして多くの写真賞やコンテストの審査を担当。写真関係者でつくる俳句会「一滴会」同人。2007年11～12月、NHK教育TV「趣味悠々」で『カシャッと一句! フォト五七五』の講師を担当、2009～2012年NHK衛星第2の同名番組で審査員を務める。日本写真協会顧問。NPOフォトカルチャー倶楽部理事。日本フォトコンテスト協会代表理事。

